

年間テーマ ～ 互いに耳を傾けよう ～



地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス(からし種)です。イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

カトリック大阪大司教区
社会活動センター・シナピス

TEL/06-6942-1784 FAX/06-6920-2203
Email/sinapis@osaka.catholic.jp
ホームページ/<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

今月のテーマ

「心の中に光を」

タイトル:

「かぞくがにどのしたでわりってるよ」

作: セナトーレ まもるさん (6歳)
第7回シナピス主催絵画コンテスト
シナピス賞受賞作品

ニュースレター 目次

1 巻頭言

【シリーズ】

2 子どもたちに伝えたい平和

【連載】

3 子どもの本で平和をつくる⑧

【特集】

4 「経口中絶薬承認に反対する署名用紙」に対する反響を受けて

【委員会だより】

5 社会活動委員会「ちょっと聞いて」

7 障がい者委員会「障がい者委員会より」

【シナピス】

8 ホームだより

9 祈りの集い報告

10 シナピスの風

11 あとがき

チラシ・ご案内

- ・シナピスの風
- ・12月の祈り
- ・シナピス工房カタログ Vol.6(最終版)
- ・わすれないあきらめないカレンダー
- ・教皇メッセージ
「貧しい人のための世界祈願日」
- ・死刑廃止を求める祈りの集い案内
- ・飯盛山麓クリスマスフェスタ案内
- ・シンポジウム「マイナンバー制度」案内
- ・オンライン署名案内

年間テーマ

～互いに耳を傾けよう～

これは教皇フランシスコが数々のメッセージの中で、私たちに何度も呼びかけていることばです。身近なことから世界に至るまで、互いを思いやれないことで生じる衝突が後を絶ちません。この言葉を受け、交わりを通して互いを理解し尊重しあえる平和の実現を目指します。このニュースが皆さまと一っしょに考え、わかちあいの場となることを願っています。

まもなくクリスマスを迎える中、町はせわしくなってきたことだろう。コロナ禍前の状況を取り戻すべく、あくせくと動く私たちに少しでも安らぎの時を示すかのように、町はイルミネーションで飾られている。不思議なもので、これらのイルミネーションは、冬の厳しい寒さの中にあって、初めて彩をしめすのである。それは空気が乾燥し、冬の厳しい寒さの中にあって、光を遮るものがなく私たちの、心に染みわたるからであろう。

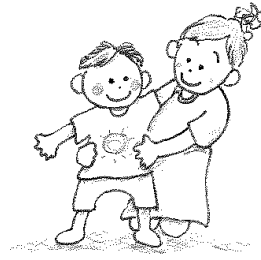
「光」というものは不思議なものだ。普段は、「光がある」とは言わないが、いざ光が失われると、私たちは途端に不安となり、光を探し求める。光には安心とともに、私たちが目指すべき方向を示すのである。言うなれば、逆境のなかでこそ、光は輝くものであり、その光を頼りに私たちは、自分たちが歩むべき道を見出し、歩み始めるのだ。

創世記で神が初めに造られたのは、「光」であった。言い換えれば光は、私たち人間に先立って存在しなければならないものであると言える。それは、先ほども書いた通り、私たちは光を頼りに生きるものだからである。では、今の私たちはこの「光」を頼りにしているのだろうか？おもしろ、スマホの光にばかり目を留め、彩豊かな光の姿に目を留めることを忘れていないだろうか？

悲しいかな、私たちは一生懸命になりすぎる際、周りが見えなくなる傾向にある。それは、光の豊かさに気づかず、いつの間にか独りぼっちの暗闇に迷ってしまうのと同じである。しかし、私たちが目指すべきは、光の方向へと向かうことである。まさに、幼子に会いたいと願い、星の導きを信じて、暗闇の中、燦爛と輝く光の指す方へ、歩んだ東方の王たちのように。改めて、私たちは、光に向かって歩んでいるのだろうか？光の色どりの豊かさに気づけているだろうか。ブルーライトの光に惑わされることなく、イルミネーションの向こうに、少しでも安らぎを与えようとする人の心の豊かさに気づける人でありたいと願う。私たちの心に差し込む光に向かって歩む、そんなクリスマスを迎えたい。



子どもたちに 伝えたい平和



カトリック堺教会所属 さとうあきこ 佐藤明子

11月に入ると私が勤めているカトリック幼稚園では、教会より一足早く降誕劇の練習などクリスマスの準備を始めます。エントランスには馬小屋と飼い葉桶と藁が準備されており、善い行いをすると藁にして飼い葉桶にお捧げしています。ろうそくに灯をともしながら子どもたちとクリスマスの意味を分かち合うこの時期が、私は1年の中で一番好きです。

毎年、子どもたちは真剣な表情で聖書の話に聞きいっています。神様の息吹によって私たち人間が創られた事、その人間が神様との約束を破り、恥を覚え、神様の怒りに触れたのではと恐れ逃げ出した事、それでも神様は私たち人間を心から愛し、御子イエス様を私たちの世界に贈って下さった事、マリア様が天使の言葉に驚き戸惑いながらも「お言葉通りになりますように」と受け入れた事、イエス様が馬小屋でお生まれになった事、社会の中で理不尽を強いられていた羊飼いに最初の知らせがあった事。以前ひとりの子が「ぼくわかった。羊飼いが羊も連れてお祝いに行けるようにイエス様は馬小屋で生まれたんやわ。」と晴れやかな顔で教えてくれたとき、子どもたちには真実を見抜く力があるのだと感じさせられました。聖書の話の他に必ずする話があります。トルストイの「靴屋のマルチン」です。家族を亡くして心寂しいマルチンのもとに、困った人に姿を変えたイエス様が現れるというお話です。この話をした後には近くで困っている人や、世界の中で困っている人たちに心を寄せながら、「もうひとつの椅子」を置いて過ごします。このような日々の中で、クリスマスが近づくにつれて子どもたちの中に暖かな世界が広がっていきます。

さて、子どもたちに伝えたい平和について考えました。神様から息吹を受けた子どもたちははじめから「平和」を知っています。私たち大人こそ、そんな子どもたちから平和を学ぶ必要があると思うのです。ユネスコ憲章前章には「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」とあります。愛と笑顔と敬意に満たされ、ありのままの自分を受け入れられ育つ子どもたちが未来の平和を築く人になるのだと私は信じています。そのためには大人が子ども一人ひとりの尊厳を認め、思いを尊重することが大切だと感じています。

ジョルジョマンニ神父様が素敵なお話を教えてくださいました。「私は子どもたちの中に聖櫃せいひつが見える。だからいつも子どもたちに手を合わせています」

世界中の子どもたちが大切にされ、平和な世界が実現しますように。

平和の御子の御降誕を心からお祝いいたします。

子どもの本で平和をつくる ⑧

たごけいこ
多湖敬子



戦争をやめた人たち …1914年のクリスマス休戦…

文・絵：鈴木まもる

出版社：あすなろ書房

価格：¥1500+税

この絵本は、1914年から4年間続いた第一次世界大戦の戦禍の中で起きた実話をもとに描かれています。

クリスマスイブの夜、戦場に銃声の代わりに「クリスマスキャロル」の歌声が流れるという「奇跡」が起こります。

イギリス軍の兵士が疲れ果て、ざんごう^{*}で休んでいた時のことです。なにか人の声のような音がしました。それはドイツ軍がいる方向から聞こえてきました。歌声です！ドイツ語なので何を言っているか分かりませんでした。メロディーはわかりました。クリスマスの歌「きよしこのよる」です。見ると、焚火の周りで兵士が歌っているようでした。やがて、イギリス軍の兵士たちも歌い始めます。「もろびとこぞりて」や「みつかうたいて」など、クリスマスの歌が次々と歌われ、いつの間にかお互いの兵士たちが拍手をしていました。

一夜明けてクリスマスの日の朝、ドイツ軍の兵士が手を振ってやってきました。イギリス軍の若い兵士も銃を置いて出ていきました。

「メリー・クリスマス」ふたりは、がっちり握手をしました。ほかの兵士たちも、みんな出てきて、お互いに食べものを持ち寄り、乾杯をしたのです。その後、着ていた上着をまるめ、ひもでぐるぐる巻きにしてサッカーが始まりました。ゴールはその辺の棒を立てただけですが、みな子どものように楽しく興じ、そして笑いあいながら、またあうことを約束してそれぞれのざんごうへ帰っていきました。

セピア色の単色で描かれたページはやがて夕焼け色に染まり、美しい夕空へと変化します。

でも、残念ながら、これで戦争は終わりませんでした。



<作者・あとがき>

この話は、イギリスもドイツも、キリスト教という宗教を信仰する人が多く、おなじようにクリスマスをいわい、同じ歌を歌っていたから、おこったことなのでしょう。今の世界には、いろいろな宗教があり、考えかたのちがう人がいるので、こういうことは、なかなかおこらないかもしれません。

だから、ざんねんながら、戦争は今も世界でおこっています。でも、信じる宗教や考えかたがどんなにちがっていても、ふるさとの自然や、家族、子どもをたいせつに思う気持ちはおなじです。

ほかの命のことを思う想像力と行動する勇気があれば、戦争をやめることはできると思います。

<作者・制作ノート>

この絵本の、あとがきの絵を描いているときに、ロシアがウクライナに侵攻を始めました。また戦争をはじめ人間がいる現実に愕然としつつ、戦争することよりも強い、人の優しさと想像力が描きたくて、絵を完成させました。戦争をはじめめるのも人ですが、戦争をやめることができるのも人です。国や宗教、言葉を超えて相手を思う想像力と、音楽やスポーツ、芸術活動（もちろん絵本も！）など、その人なりに自分らしく生きるという想像力、それらを行動で表す勇気が戦争をやめる力を生み出すのだと信じています。

この絵本がウクライナの人たちの幸せにつながることを願っています。

「戦争をやめた人たち」ラストページの言葉
この星に、戦争はいりません。

※ざんごう（塹壕）＝戦場で、歩兵が敵弾を避けるために作る防御施設。溝を掘り、前方に掘った土や土囊（どのお）を積み上げたもの。（weblio 辞書）

「経口中絶薬承認に反対する署名用紙」に対する 反響を受けて 第4回

先月に引き続き、いただいたご意見を掲載いたします。



◆匿名希望

私は小さい時から人づき合いが苦手で、ろくに話し相手のいないときもありました。十代では不登校になり、二十代で結婚して離婚し、無職で半分放浪状態のときもありました。

障害者になり、ある宗教に入り、預金もなくし、でもなんとか実家に戻れて、その後カトリック信者になりました。十代からずっと自殺願望があり、失敗したので生きてきました。両親の介護がすんだら死のうと（罪深く）思っていました。すでに両親は旅立ち、私も人生をほぼ一周して、生きててよかったな、と思うのです。何もありませんが、人の支援があります。死ねなくてよかったんだ、とじわーっと思います。お御堂で十字架を見上げると、この方がこの（罪深い）私をひきとってくださったんだな、と感じることがあります。

もし私が、いつか何かの原因で死んでいたら、不幸な人、自分で幸せをつかみとれなかった人、自業自得の結果として終わっていたでしょう。今のこの（神さまとの秘密の）喜びもなかったでしょう。

お願いです。へりくだって願います。お母様方のご苦労は想像を絶するものがあるに違いありません。

でも今お腹の中にいる子に、チャンスを下さいませんか。よい子に育たないかもしれない。私のようなダメ人間かもしれない。親も周囲もいやがるかも知れません。でも生きていたら、神さまが慈しみをくださって生きていてよかったと思うかも知れません。

願います。



★ 11月号にご投稿くださった、宮永久人さんから訂正のご連絡をいただきました。

×経口避妊薬 → ○経口中絶薬

よろしく願います。

釜ヶ崎炊き出し支援に参加して考えたこと

南地区河内ブロック社会活動委員会

10月8日(土)に大阪南地区河内ブロックの社会活動委員3名で、釜ヶ崎の「勝ち取る会」が



実施している炊き出し活動に参加してきました。私はコロナの蔓延以降初めての参加でしたので、コロナの影響はどうかしらと考えていましたが、炊出しで提供された肉入り野菜丼は400食弱ほどで以前とそれほど違いはありませんでしたが、感染防止の配慮がされていることは以前と大きく違うところでした。また、食事を作る場所の足場が悪く、補強が必要だと感じました。

大阪南地区は河内・堺・玉造・阿倍野ブロックからなっており、その中に釜ヶ崎地区が含まれていることもあって、社会活動委員会の総意で2005年12月、全信徒に釜ヶ崎炊き出し支援活動と呼びかけ実施してきたと聞いています。それに伴い各小教区で釜ヶ崎の炊き出しのための募金を募り、月に一度、活動に必要な資金を持参し、「釜ヶ崎高齢日雇い労働者の仕事と権利を勝ち取る会」主催者にお渡しし、一緒に炊き出し活動をしていました。当時は1回で1000食ほどの炊き出しだったようです。

コロナが蔓延した2019年、炊き出し活動が縮小したため、しばらく支援金をストップしていましたが、今年9月より「勝ち取る会」からの依頼で大阪南地区の支援を再開することになりました。

再開にあたり、今までは現金を直接届けていましたが、銀行振込を利用することになりました。しかし、社会活動委員会会議では、実際に炊き出し活動をしている現場を見ないでお金だけを振り込むだけでいいのだろうか、やはり、現場を見て、今の釜ヶ崎の現状を見て、「ともに食事をする時間を大切にする」支援が必要ではないかとの意見が大多数となったため、今後は、支援金を現金で渡していたときと同様に、順番に活動に参加することを続けて行くこととなりました。



私たちは、今までも個人として、炊き出しやその他の社会活動に参加したいという思いを持っていました。

今回、今後の支援活動のあり方について話し合い、その上で炊き出し活動に参加したことは、各小教区の社会活動委員の役割について考えるいい機会でした。それは自分が活動に参加することや募金集めをするだけでなく、「いま釜ヶ崎は炊き出しに〇〇名ぐらい並んでいるよ」「お年寄りが多かったよ」「若い人もいたよ」「女性もいらっしやったよ」「こんなことで困っているようだったよ」という実際に参加して見たり聞いたりした現場の生の様子を、教会で皆さんに伝えることであり、「支援者は子どもさんも来ていたよ」「学生さんの参加も多いと聞いているよ」「支援者も高齢者が多かったな」だから次回は参加しないかと声をかけることである、ということが小教区での社会活動委員の役割なのだとあらためて認識したことです。

これから、大阪の同じ地区に暮らす仲間として釜ヶ崎の現状を伝え、活動を呼びかけていきたいと思います。

『キリスト者としてのあなたにとっての平和』

北地区社会活動委員会 吉澤 由喜

秋晴れに恵まれた10月30日、北地区社会活動委員会の学習会を関目教会にて開催することができました。日曜日の午後というくつろぎの時間に、30名以上の方が参加して下さいました。

『キリスト者としてのあなたにとっての平和』というテーマでスピーチして頂くという、この学習会の内容は、今年の夏の平和旬間行事として北地区社会活動委員会が企画していたものです。しかし、コロナ感染拡大の影響により、行事が中止となってしまいましたので、ご準備下さっていたスピーチを、何か他の形で語って頂く場を設けたいと願っていました。当日は4人の方がご自身で語って下さり、ご都合で参加できない方2人の代わりに、近しいご友人が代読して下さいました。6人の皆さんが語って下さった平和への視点は、お一人お一人様々でした。

ご両親がベトナム戦争中にフランスに逃れることができた外国人信徒の方は、常に平和のために働く人であることを選択したいと語られ、戦後50年経っても環境破壊が残り、その環境破壊からくる人間への害が今なお続いていることを訴えておられました。

実習先でのお年寄りとの関わりの中で、戦時中に必死で生き抜いてきた体験談に耳を傾けた若い女性は、非現実的だった戦争が身近な物に感じられるようになったそうです。祈ることしかできなくても、神様がいつか平和な世界を実現して下さいと信じたいと言われました。

B29の爆撃機の話から『愛は非暴力』と言ったガンジーの話までされた神父さまは、軍事拡大や強化に世論が傾きつつある今日を憂慮され、平和そのものである憲法9条を守っていくべきだという強い想いを伝えておられました。

車椅子を利用されている女性は、生活や子育ての大変さの中で、折に触れて祈りの大切さとその恵みを感じてこられたそうです。ご自身の平和を祈りの中に見出されていらっしゃいました。

ミャンマー難民との出会いがあった方は、人と人との出会いを大切に、ミャンマー難民やベトナムの技能訓練実習生を見知らぬ人とするのではなく、他者・隣人として大切にしていこうと語られました。自分たちに何ができるのか考え、行動できるようになったとのことでした。

また、ご自身にとっての平和とは、『主に愛されている。』『主に守られている。』と感じることであり、それは完成形ではなく、現在進行形ですと語られた方もおられました。ご自身の人生を振り返り、まさにマーガレット・F・パワーズの『足あと』の詩にあるように神様を感じていらっしゃいました。

私たちにって平和とは何なのでしょう？・・・これが正解というものはなく、また、一つだけというものでもなく、だからこそ無力さに苛まれる時もあります。しかし、6人の方のスピーチを通し、何もできない自分から、何かできる自分を見つけようと感じました。

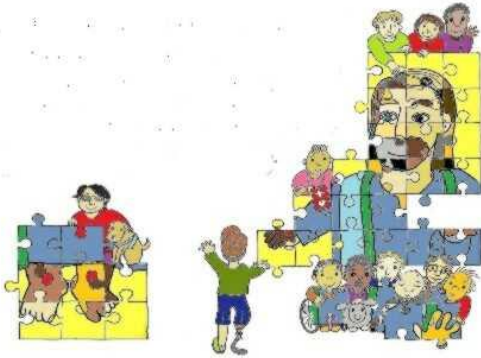
最後は、アッシジの聖フランシスコの平和の祈りと教皇フランシスコの祈りでこの学習会を締めくくりました。世界中の人たちが、そしてこれから生まれてくる子どもたちが、安心して穏やかに生活できるように、日々の祈りとともに自分が求める平和に向けて…過ちを繰り返さないために。



障がい者委員会より

障害の医療・社会・文化モデルから福音モデルへ②

障がい者委員会 よしかわやすお 吉川康夫



(根来氏作「歩むミサの挿絵」)

アメリカ英語で「障害」を“チャレンジ”、「障害者」を“チャレンジッド”と呼ぶことを知って久しいです。「障害者」を“チャレンジャー”と呼ぶ人もいますが、能動態より受動態（受け身）の方が分かりやすいです。

「清くされた」、「癒された」、「救われた」は、すべて受け身です。それに対してイエスさんは、「立ちなさい」、「行きなさい」、「エッファタ！」（「開け」）と、すべて命令形で言われます。「夜

と霧」を書かれた精神科医のヴィクトール・フランクルは、ナチスの収容所の中で絶望した青年に「あなたが人生に絶望しても、人生はあなたに絶望しない」と言いました。私は、イエスさんが主で、私たちが従と考えています。

ルカ福音書 17 章 12 節（聖書協会共同訳）を読むと、規定の病を煩っている 10 人を深く憐れみイエスさんは、「祭司に身体を見せに行くように」言います。その途中 10 人が清くなったとあります。イエスさんは規定の病を煩っている人が信仰告白する前に清くされました。イエスさんは信仰と引き替えに癒すなど心が狭くありません。そして、清くなった 10 人のうちひとりだけが癒されたと気づきます。病気・障害が治ることと癒されることは異なるのです。規定の病が治っただけでなく、心も癒され、解放されたのでしょうか。イエスの足下にひれ伏したサマリア人に対して「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」と言われたのです。「清くなる」（医療モデル）、「癒やされる」、「救われる」（福音モデル）を聖書では明確に区別しています。

ルカ福音書 8 章 26 節を読むと、悪霊に取りつかれたゲラサの人を癒やすところで、「お供をしたい」と、願った人にイエスさんは「自分の家に帰って、神があなたにしてくださったことを、ことごとく聞かせなさい。」と、言われます。排除された共同体に帰って、福音宣教しないさいと言われたのでしょうか。

イエスさんは、戻って来たのはサマリア人とも、ゲラサの人とも、マタイとも、そしてザアカイたち罪人と呼ばれる人たちとも一緒に食事をし、交わり、語り合い、分かち合ったのではないだろうか、と考え瞑想しています。

私もすべての友と一緒に“障害の福音モデル”について分かち合いたいです。



シナピスホーム便り



やまだ なおこ
山田 直保子

早いもので、もう12月ですね。

シナピスホームは、12月2日で開設2周年を迎えます。毎週通って下さる方たちや、「久しぶりでず」と来て下さる方や、初めて来られる方で、ホームのカフェはとても活発に動いています。ありがたいことに難民移住者への理解とともに、清掃奉仕などの活動を頂ける機会も増え、最近カフェに参加する難民移住者が少なくなりました。生活丸抱えのシナピスにとってはありがたい事だとはいえ、お客様には少し寂しいかもしれません。現在は毎週水曜日の午後と、毎月一回のランチを振る舞う土曜日開催で定着しています。

先日、クリスマスを迎える前にホームをかざりつけました。

「去年どうだった?」「ここはこうしたほうがキレイね」「電気でピカピカにしたい」などみんなで楽しく話しながら装飾をつけていき、移住者たちのクリスマスの思い出を聞いたり、日本人は宗教に関係なくクリスマスをするのはなんで?といった質問なども飛び交い、とても楽しい時間になりました。

ホームの外にある掲示板の飾り付け時には、通りがかった小さい子どもが「あ!サンタさん!」と大きな声で叫んで、作業していた難民移住者が手を止めて、「こんにちは。サンタさんだね～」と声をかけて交流する様子も見られました。一つ一つ一緒に作り上げていく、作業をともに行うというのは、一体感が生まれ、その事を味わえる私は本当に幸せ者です。



ホーム外にある掲示板



素敵なタペストリーがお出迎え

方々とともに活動出来たらこんなに嬉しい事はありません。シナピスホームを見守って下さっている、地域の方々に貢献したいと常々思っていた私が、体調が思うようにならず、でなかなかうまく物事が進まないのですが、くじけずに皆様のお力を借りて頑張っていきたいと思います。3年目に入るシナピスホームをどうぞこれからもよろしくお願い致します。

最近では、生野教会のご協力のもと、バザーに出かける事も多くなりました。

生野教会で難民移住者が作った食べ物や、シナピス工房の商品などを提供しようと動いて下さり、日曜日のミサ後に出店できることになったり、シスター達が職員間の交流としてホームを使いたいと提案してくださったり、とても忙しくなりそうで、難民移住者たちは喜んでます。コロナ禍や、様々な事情で今までなかなか外に出ていく機会がなく、こういう機会を頂けて本当に感謝しています。これからは少しずつ外に出ていき、地域の



11月の 祈りの集い



11月は「死者の月」、この一年間の世界の出来事を振り返り亡くなられた方、またそのご遺族のために多くの参加者と共に祈りを捧げました。

「死」というと、恐怖や悲しみ、人との交わりを断ち切るようなイメージがありますが、キリスト教では、神を信じて生きる私たちは魂を持って復活し、死後の世界には別離の悲しみはなく永遠のよろこびがあると信じています。そして復活したわたしたちの大切な人をどのように感じるのかという事を松浦神父は歌で表現されました。

『私のお墓の前で泣かないでください
そこにわたしはいません
眠ってなんかいません
千の風に 千の風になって
あの大きな空を 吹きわたっています』

『秋にはひかりになって 畑にふりそそぐ
冬はダイヤのように きらめく雪になる
朝は鳥になって あなたを目覚めさせる
夜は星になって あなたを守る』

曲:秋川雅史 千の風になって

目に見える肉体はいつか滅びますが、その後にある復活が約束されていると実感できる集いになりました。



祈りの集いをきっかけに、こんなことができました♪

7月の祈りの集いで聖歌を歌ってくださった大阪明星学園グリークラブの皆さんの歌声は10月の集いでも使わせて頂きました。そのやり取りをする中で、グリークラブ顧問の先生にシナピスで支援しているアフガニスタン難民の青年に制服の寄付を募って頂けないかお願いをしてみました。

このアフガニスタン難民の青年はタリバンから逃れて今年3月に来日しました。彼は義務教育課程を母国で終えているので、来日後すぐに学校に通えずにいました。その事を知ったサレジアンの方のシスターが特別に聴講生として東京のミッションスクールに迎え入れて貰えるよう掛け合ってくださいました。多くの物は学校から貸与していただけましたが、制服だけはサイズが合わず買う余裕もないので有り合わせの物で通学をしています。

この相談を受けた大阪明星学園理事長馬込神父が彼のために何かしてあげたいと、新品の制服を寄付してくださいました。一人の青年を中心に次々と支援の輪が広がり、皆様の愛を感じています。本当に有難うございます。彼はこの3月高校受験をする予定です。どうぞ皆様祈りで応援してください。

次回は12月8日(木) 20時半～

「平和の君の誕生を祝う」

司式：エリック・デ・グスマン神父

参加は下記 Zoom ID&パスコードを入力
または、QRコードからお願いします。

ID: 761 071 2034

パスコード：123456



地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス（からし種）です。

イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

シナピス年間テーマ ～互いに耳を傾けよう～

シナピスの風

*掲載行事はコロナ感染症の影響で延期または中止になることがあります。ご参加の際は連絡先にお問い合わせください。 第155号 2022年12月1日発行

12月の祈り

「天には神に栄光、地には人々に平和」
 戦争の悲惨さと愚かさを毎日
 目にしているこの時期に、
 福音が伝えているこのことばは、
 わたしたちの心に強く響きます。
 わたしたちの切な願いです。
 今年は、クリスマスを迎えながら
 戦争によって命を奪われ、
 多くの苦しみを覆わされている人々の姿を
 無視することができません。
 ベツレヘムにお生まれになったイエスに
 すべての人は平和のうちにらせる世界を
 実現するために働く決意を捧げます。
 天の父よ、わたしたちに知恵と力を
 お与えください。アーメン。

飯盛山麓 クリスマスフェスタ

日時：12月18日（日）
 14時～16時
 場所：カトリック大東教会
 大東市北条1-23-30
 072-876-5434



第1部 講演「飯盛城下の
 おもてなし」
 講師：天野忠幸さん
 (天理大学准教授・大東市PR大使)
 第2部 クリスマス演奏
 コントラバス 下村 修さん
 ピアノ 下村由美子さん

主催：カトリック大東教会
 問合せ：090-6605-3465 (高橋)

オンライン祈りの集い

～世界平和のために祈る～

テーマ：平和の君の誕生を祝う
 12月8日(木)20時半～(30分)



Zoom ID&パスコード(100名まで参加可)
 ミーティングID：761 071 2034
 パスコード：123456



シナピスでは、毎月のお祈りをニュースレターとともに
 お送りしております。教会で、ご家庭で、日々のお祈りにお使いください。
 シナピスのホームページからも、ダウンロードしていただけます。

シナピスカフェ

★毎週水曜日 13時ごろ～16時ごろ

12月の開催：7.14.21

★月1回土曜日 11時ごろ～16時ごろ

12月は17日(土)

*新型コロナウイルス感染対策のため、
 人数制限を行っています。
 人数把握のため事前にご連絡ください。

シナピスホーム：生野区中川6丁目6-23

☎：080-8940-8847



ホームのりりー

シナピス工房 クリスマスカタログ

今年もみなさまに喜んでいただける
 クリスマスに向けて人気グッズや新
 作の作成に取り組んでいます。
 クリスマスに贈るプレゼントは是非
 ともシナピスでお求めください♪



総額3,000円以上ご寄付を頂いた方にス
 テキなプレゼントを1つ差し上げます!

2021年 正義と平和大阪大会 分科会録画(動画) 限定公開!!

大会で開催された分科会の録画(動画)
 を編集したものを限定公開します。著作権
 に抵触する部分や個人情報保護に抵触する
 部分は削除・編集しています。その他も準
 備完了後、順次公開をしていきます。
 教会のグループ学習等でご活用ください。

視聴方法や申し込みはこちら ▶▶▶

カトリック大阪教区ホームページ内
 「正義と平和大阪大会」をクリックしてください。



シナピスでは 移住者や
 ボランティアの方々とともに
 ロザリオやカード、雑貨など
 をつくり皆さまにご提供さ
 せていただいています。ご寄
 付は難民移住移動者の生活
 に役立てられます。どうぞ
 ご協力をお願いいたします。

支援のお願い

おかげさまでパスタ、体温計は沢山のご寄付をいただきました。
 日持ちのする食品、ハラル食品、不織布マスク、
 米、そしてレトルトのご飯などのご支援をお願いいたします。

感謝



シナピス公式 Instagram・LINE ができました!

さまざまなお知らせや情報を発信!

友達追加はQRコードから



カトリック大阪大司教区 社会活動センター シナピス
 Tel 06-6942-1784 Fax 06-6920-2203
 URL: <https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

「点訳版」「音訳」
 ご希望の方はシナピスまで
 お申込み下さい。

11月号掲載「10月祈りの集いの報告」でお名前に間違いがありました。お詫びし訂正いたします。

司式サレジオ会

×田村宣行神父→○田村宣行神父

活動へのご支援ご協力

よろしくお願ひいたします。

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス

難民移住移動者支援もよろしくお願ひいたします。

支援物資提供のお願い
米、ハラル食品、レトルト食品
テレホンカード、不織布マスク
レトルトご飯、缶詰

お電話をお待ちしています!!
☎06-6942-1784



HPはこちらから

<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

シナピス公式

さまざまなお知らせや情報を発信!

👉友達追加はQRコードから👈



ニュースレター配布停止ご希望の方は
シナピスまでお知らせください。

「時報 12月号より」はクリスマス号に同封いたします。

あとがき

Aさんのお母さんが祖国イランで亡くなった。突然の訃報だった。悲しみに暮れる彼を慰めることばがない。帰ることもできず、母の手にも触れることもできないAさんのため追悼のミサをささげた。訃報を聞きつけた人たちが集まった。司式をしたセンター長ははじめに「追悼の祈りは亡くなった人より遺族のためにある」と話してくださった。厳格なイスラム教の家に生まれたAさんだが、日本に来てカトリックに改宗した。日本語があまり話せない彼のために友人は聖書やメッセージをペルシャ語で朗読し通訳した。最後にコーランの祈りがささげられた。亡くなった人の永遠の安息と神が遺族を慰めてくださるように。宗教が違って、神により頼む思いは同じだと祈りを聴きながら思った。待降節が始まった。平和の君の誕生がAさんの心を温かく包んでくださいますように。(H)

▽▲▽ シナピスの主な活動 ▽▲▽

◆広報活動

- ・教皇メッセージ、司教団メッセージ等社会活動の指針の伝達
- ・読者と教会内外の社会活動をつなぐ機関誌としてシナピスニュースを発行

◆大阪教区・社会活動委員会との連携

◆学習会研修会の企画

◆こども基金

世界・日本のこどもたちへの援助

◆カトリック中央協議会との連携

正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣

◆人権教育の講師を務めるなど教育機関への働きかけ

◆難民移住移動者支援

難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

難民移住移動者 相談ダイヤル

☎ 06-6941-4999

アクセス

〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22

カトリック大阪大司教区事務局内



●公共交通機関ご利用の場合

JR 森ノ宮駅より 約 1000m

地下鉄中央線森ノ宮 2 番出口より 約 800m

JR 玉造駅より 約 1000m

地下鉄長堀鶴見緑地線玉造 1 番出口より約 800m

●車でお越しの場合

阪神高速 1 3号東大阪線法円坂出口

法円坂交差点南へ上町を東へ

活動へのご支援ご協力をおねがひします

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス